



## 生命誌の広場

### テーマ別に投稿を読む

- 中村桂子の「ちょっと一言」▶
- 研究について▶
- 季刊「生命誌」▶
- 展示・映像▶
- その他▶

### あなたの考えをお聞かせください

### ご意見はこちらから

#### 最新のお返事

- 2019年10月02日  
[RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月26日  
[アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月13日  
[原爆について](#)
- 2019年09月05日  
[BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月28日  
[この夏一番元気だったものは？](#)

#### 最新のご意見

- 2019年09月27日  
[RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月25日  
[アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月09日  
[原爆について](#)
- 2019年09月05日  
[BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月23日  
[この夏一番元気だったものは？](#)

#### 過去の書き込み

2019年 10月  
GO

### みなさんからのご意見

#### その他

#### お礼とお願い

投稿日：2017.02.27 名前：岩崎 史郎

私は2月25日多摩パルテノンで先生の映画とトークを拝見拝聴した者です。映画では先生の幅広いご活躍に驚きましたが、トークでは遥かに驚きました。壇上でお話しされる先生の何と輝いておられたことか！テレビや今回の映画で、先生のお顔・お話は拝見拝聴しておりましたが、初めて直に接する先生は生き生きと輝き、先生の表情・お話ぶりに、私はため息まじりでございました。テレビ映画では先生の生き生きとした輝きあまりにも少ししか出ていないと感じました。

#### その他

#### 動物実験

投稿日：2017.02.16 ニックネーム：leon94

朝のコメントの続きになります。  
本その他にも私はラジオの放送大学や第二放送を犬の散歩の時や台所仕事の時に聞いております。今日も洗い物を片付けながら聞いておりました。動物実験で「愛」について科学的に研究をした、という話でしたが、「人間だったらとてもできないことが動物だったらできます。子供を親から引き離して24時間観察する・・・そうしたら親から離れた子は哺乳瓶には執着を示さなかったのにタオルや毛布などに強い執着を示した」という内容の話が流れていた時、私は洗い物の手を休め、首を横にかしげたままじっと立っておりました。研究のためなら仕方のないことなのでしょう。無学の私には分かりません。ただ、毛布やタオルに強い執着をしめず赤ちゃんのさるがただただ可哀想でしかたないのです。可哀想、では言い尽くせません。残酷だ、という気持ちの方が近いのです。親がいた子です。事故やその他避けようのない自然の力で親と引き離された子ではないのです。胸が詰まります。  
本と同じくラジオも番組によってはとても豊かな時間を私たちにくれます。中村先生を存じ上げたのもラジオのお陰です。情報はいろいろなところから手に入る世の中です。こういう世の中であるからこそ、何が大切なのか、何を優先させなくてはならないのか、しっかりと見極められる心を育てていきたいと強く思います。

#### その他

#### Books!

投稿日：2017.02.16 ニックネーム：leon94

中村先生のご著書を何冊か拝読しておまして『地球に優しい』という発想についてお書きになられた箇所に出会いました。そこで、いかに自分が思い上がっているかに気づくことができました。  
自分たち人間が一段上に立って・・・その通りでした。自分ではそんなつもりではおりませんでしたので、恥ずかしさが湧き上がり、地球に生存している全ての生き物たちに頭を下げたい気持ちであります。  
今『生き物が見る私たち』を拝読しております。私の好きな和田誠さんのイラスト付きでとても分かりやすく読み進む事ができます。  
全てのご著書に散りばめられている『生き物すべてが一つの祖先から生ま



- 10月19日生命誌オープンラボ (19.10.01)
- 10月4、5日 生命誌を考える映画鑑賞会(19.10.01)
- 昆虫脳の標本展示が登場！(19.10.01)
- パラパラめくる生命誌3ダウンロード開始(19.10.01)
- あくあびあ芥川とスタンプリリー開催(19.10.01)

れ・・・』このメッセージから多くのことを学べると感じました。私たちはみんな兄弟、姉妹、親戚じゃない、アリだって、ミミズだって、オサムシだって、恐竜だって、ライオンだって、トラだって、ゾウだって・・・なんだ、なんだ、そうなんだ！ と私は少し興奮しております。

本は素敵です。25日、東京で中村先生に直接お目にかかれる機会があるというのに、残念ながらその日は大阪で参加できないという私のような人（勿論参加できない理由は様々でしょうが）は多いと存じます。そういう人々に、本は大切なことをきちんと文字で伝えてくれます。大きな味方で本から多くのものを貰えます。子供達にもこういう本の素晴らしさを是非、伝えていきたい、本を手渡したいと思います。



## その他

### 御礼

投稿日：2017.02.14 ニックネーム：leon94

お返事を頂き恐縮しております。有難うございます。  
HPで予告編を拝見いたしました。多摩センターで実際に拝見させていただきたいという気持ちが強くなりましたが、残念ながら25,26日、私は大阪に参ります。（何とか大阪行きを一週間ずらすことができないか頑張ってみましたできませんでした。）東京にはご滞在なさらないのでしょうか。すぐにお帰りになるのでしょうか。本当に残念でたまりません。  
東京にも大阪のような生命誌館ができましたら、（東北にも九州にも全国にできるといいと思います。）何かお手伝いさせていただきたいと、夢がどんどん膨らみ続けています。  
これからHPを気をつけて拝読し、東京でのイベントを外すことのないようにしたいと存じます。今回はお手数をおかけ致しました。これからもどうぞ宜しくお願い下さい。

### お返事

投稿日：2017.02.16 名前：中村桂子館長

残念ですがまたの機会もあると思いますので、ホームページを見て下さい。こちらこそこれからもよろしく願いいたします。



## その他

### 子供達に

投稿日：2017.02.13 ニックネーム：leon94

今朝、お便りさせていただきましたその続きになります。（『とにかく考え、提案していくことが大事です。』という中村館長のお言葉に甘えまして僣越にもまたお便りを差し上げます事をお許しく下さい。）

NHKカルチャーラジオのテキスト『まど・みちおの詩で生命誌をよむ』に書かれている動物園のゾウの話（ご飯を貰いたくて芸をするゾウ）や、図書館で借りて参りました『科学者の目、科学の芽』の中で、佐藤正典先生がお書きになった文章『生命を育む大地をこんなにつぶしても何の恐れも感じず・・・必死に道路を横断しようとするアカテガニの親子を平気で踏みつけながら、エアコンの効いた自家用車で快適なドライブを楽しむ人々。そんな人ばかりの社会にどんな未来があるのでしょうか。』など、多くの言葉の前で私はひたすら降参して目をふせております。そして、これらの素晴らしいメッセージを何とかして子供達に伝えていきたいという気持ちが膨らみます。小学校を回ってこの『まど・みちおの詩で生命誌をよむ』に書かれているメッセージを伝えていくプロジェクトが立ち上がれば、そして全国の小学生に伝えていければ、どんなに素敵でしょう。

先ほどから『知の発見』を拝読し始めました。まだ最初の方ですが、沢山のページに付箋を貼っております。何度も読み返したいからです。

本当に子供たちにこそ考えてもらいたいメッセージが散りばめられております。少しでもこの地球上で、私たち人間が、豊かな自然と共に、人間以外の生き物たちを尊敬し、彼らから多いに学び、そして譲り合い、助け合いながら、彼らと共に、自然と共に生きていけますよう、今、子供達と共に考えていければ、とそうように思います。



## その他

### 勝手に放題の人間

投稿日：2017.02.13 ニックネーム：leon94



NHKカルチャーラジオを聴いていた時、私は動作がストップして脳の中の鐘が響き渡ったように感じました。中村先生の思いが脳から身体に沁みわたって参りました。私がうつうつと言葉にできずにお腹にためこんでいた思いを、中村先生が見事に言葉に表現してくださり、とても親しみの籠った優しいお声で語りかけてくださっているように感じてスーッと心が開かれるように感じました。常識がなく知識もないただの主婦の私は初めて中村先生のことを知り、カルチャーラジオをのテキストを購入し、図書館に走り先生のお書きになられた本を複数借りて参りました。ああ、本当にそうです。人間はいつも勝手な事ばかり。動物園のぞうのことはあまりに酷く、それでも知らないまま、知ろうとしないままに同じような愚行を重ねているのが私たち人間で、通りを歩きながら排気ガスに汚れ、おどおどと逃げ回る鳩に謝り、1月中旬から咲き始めた河津桜を見ながら暗い気持ちで北極に暮らすシロクマやセイウチのことを考えてまた謝って、謝って、謝って、でも、そんなの、綺麗事をいっているだけじゃないか、自分は蚊帳の外にいて呑気に言いたい事を言って勝手な事をする人間のひとりじゃないか、そうじゃなくて、何か行動しろ、動け！と自分を情けなく思っている何もしようとしないうるで怠惰な人間です。

中村先生にお目にかかれる機会がございますか？ 講演等で東京にいらっしゃる御予定はございませんか。25日にボランティア活動のため大阪に参ります、26日、帰る前に生命誌館にいこうと思いましたが残念ながら日曜日は休館日だということで、また機会を作り見学させていただくつもりであります。

## お返事

投稿日：2017.02.14 名前：中村桂子館長

カルチャーラジオをお聴き下さり、私の思いをそのまま受け止めて下さってありがとうございます。心からお礼を申し上げます。確かに一人の力では何もできませんが、生きものとしての思いを持つ人がふえれば社会は変わるのではないのでしょうか。仲間をふやして下さい。実は2月25日の午後3時から多摩センターで生命誌研究館の活動を描いた映画「水と風と生きもの」とを上映し、その後私が少しお話をするという会があります。このホームページにお知らせが書いてあります。お調べ下さってもおわかりにならなかったらまたこの欄に書き込んで下されば詳細をお知らせします。是非いらして下さい。



## 中村桂子の「ちょっと一言」

### 岡田節人著「試験管のなかの生命」

投稿日：2017.02.07 名前：岡野桂子

岡田先生へ  
訃報に接し「試験管のなかの生命」を手に取りました。最初に読んだのは40年程前になります。以来ずっと記憶に刻み込まれ残っていました。今回、館長の一言で気付いた事があります。私をひきつけていた1つの大きな要因。細胞の不思議に目を見張り、その細胞を見つめ続けてこられた岡田先生の細胞へのひいては生きものへの眼差し。それが伝わってきて私を捉えていたのです。

この本から多くのことを学びました。細胞を通して生きるを見つめる視点。1つの細胞からその場、その場面に応じて最適解を探りながら、多種多様な姿形への変容を遂げる細胞たち。そして作り上げられる1つの個体。一方、1つの個体の中で役割を演じつつもその個体を離れては生きていけない宿命を担うことになる細胞。部分と全体が反転を繰り返す。秩序と体制、自由、協調、軋轢、そして技術の介入etc。いろんなことを考えさせられます。

いつかまたこの本を手にする事と思います。この本を書き残して下さったことに感謝いたします。ありがとうございました。

## お返事

投稿日：2017.02.14 名前：中村桂子館長

科学は進歩をするので科学書は古くなるという宿命を負っているところがあります。けれどもその中に決して古くならない名著があります。「試験管の中の生命」はまさにそのような一冊です。おっしゃる通り岡田先生がその中で躍動していらっしゃるからです。これからも愛読して下さるとのこと、とても嬉しいです。

